

7月 運動場芝生維持管理だより

保健体育課
体力向上推進係

6月末から急激に気温が上昇し、これから夏芝生の成長が盛んになってくる季節になってきました。この時期の維持管理に関して、基本的な情報をお知らせします。内容については、「シビルまちづくりステーション」に協力をいただいています。

1 散水

気温が高く、雨の降らない日が続きますが、2年目以降の維持管理では、1日1回1000㎡あたり約1～2mm(1～2t)の散水が目安となります。1回10～20分程度の散水です。夏の散水時間は運動場の地熱が十分下がった夜間が適切です。6月同様に、各学校の運動場使用状況に合わせて時間設定をお願いします。使用頻度や芝生の状態を確認しながら散水量、回数の調節をしてください。芝生がしおれて、緑色が薄くなり、カールしてきたらやや水不足の状態です。

なお、面倒ですが、雨天時や数日雨が続いた後は散水の必要はないので、タイマーのON/OFFの切り替えを行ってください。

また、月1回程度は、昼間に数分間散水し、スプリンクラーが正常に作動しているかの確認を適宜行ってください。

2 施肥

夏芝の育成が盛んになる季節です。使用による傷みや刈り込みから回復するために施肥が大切になってきます。1ヶ月、1000㎡あたりに約30kgを目安に肥料(高度化成肥料14-14-14など)を与えます。芝生の育成状態や運動場の使用頻度も見ながら、回数、量や時期を調節します。



3 刈り込み

芝の育成状態にもよりますが、約1～2週間に一度、3～4cmに刈り込み作業を行います。あまり短すぎると芝生を痛めることとなります。長く放置すると、成長した部分を刈った後、日光が当たらず黄色く変色した部分が残ることもあります。また、刈り込み作業で芝刈り機への負担も大きくなります。

刈り込んだ芝生はそのままでも構いませんが、風が強く周辺施設に飛び散る場合は、回収をお願いします。

4 その他

授業や部活動を行うと、決まった場所の芝生が傷んだり、擦り切れてしまいます。一定の期間使用せずに養生を行うと回復しますが、養生期間が取れない場合は、使用する場所を少しずつずらすことが望ましいです。また、夏休みなどを利用し、目土や補植を行い、肥料を与えて養生すると2～3週間で回復します。使用頻度が高く、地面が固くなった部分は、軽く耕して補植を行うと根付きやすくなります。ポット苗の補植は、7月中旬までに行うようにしてください。

なお、それぞれの学校の実態に合った運動場の使い方として、一定の場所(野球の野手の定位置、陸上トラック等)に、芝生を補植しないことも考えられます。

※ 芝生の状態は各校によって違います。また、気象状況も変化します。芝生の様子を見ながら、作業を調節してください。詳しいことが、お聞きになりたいときは、担当係までご連絡ください。